

(参考資料)平成28年度京都市景観市民会議

各テーブルの模造紙

定義

- 抽象的で具体化が難しい
- 「歴史的景観」とは何であるのか？の定義
- 「歴史的景観」はソフトのことか、ハードのことか？
- 「景観」が不明確な意味合いであるために、市民や業者の理解が得にくい
- 歴史的景観のサイズ
- 大きい景観⇔小さなものの中にもあるのでは？
- 各地区ごとのコンセンサスが必要
- 強制力をもつ「規則」の範囲をどこまで拡大させるか

- 寺社の経済基盤の脆弱化
- 寺社と地域市民の距離が広がっている→若い世代
- 信仰心の低下→寺社への無関心 核家族化, 高齢化

営みとの関わり

- 歴史的景観と生業のこと
- 京都は生業が通り毎に違う
- 実際は「営み」とのつながりが大きい
- 歴史的景観と音(ことば)
- 景観政策だけやると建物だけの話になる

地域とのつながり

- 悩み事を相談できる宗教法人が少ない→檀家が減る理由
- 地域とのつながりをおざなりにしてきた
- 寺社も市民との接点を持つべき

- 嵐山が鹿で下層植生が無いところから落石, 土砂崩れが起こっている。京都嵐山の危機
- 風致地区に大型ゴミが捨てられている
- 斜面に勝手に滝をつくってHPに出している

お金の問題

- 売却をどう防ぐか
- 行政が手を出しにくいところ
- 行政だけでは支えられない
- Amazonで僧侶を「売っている」
- 葬祭の簡略化→儀式にすならない
- 地震への備えがない(復興)(花折断層)
- 寺社へのパトロンの不在
- 寺社の方が景観にコミットしたがる
- 寺社の人←景観を作った人ではない
- 寺社のまわりの地域景観づくり←→寺社の人
- 所有者の負担が大きすぎる
- 観光客が多く来ること
- 観光客が多い地の景観保全をどのようにするか
- 関心がないものにお金を払わない
- アプローチの維持←すごく費用がかかる
- 寺院, 神社側の今までの甘えが急に形となってきた
- 受け身の観光を続けるだけではダメ
- 経済的支援をしてあげないと規則だけでは良くならない

- 守る事と新しい事を取り入れる事とをバランス良く取組む
- 宗教法人が利益を上げる道をつくるべき
- 寺社の周りが支えてきた(お土産屋)

定義があいまい

範囲があいまい

- 市と用途地域etc.との矛盾
- 規制を常に見直していく

- 地震対策がある←起こった時の立ち直り方
- 震度6,7で破滅的
- 地震がこわい, 火災に弱い
- 京都市全体を保険にかける

寺社の維持にお金がかかる

- 火事で修復が必要←お金がかかる方に流れる
- 市(児童公園)よりも民間(老人ホーム)の方がお金を出す
- 修復費用自体を下げる・・・宮大工→普通の大工, 材料→廃材
- マンションの賃料 年間1000万円
- 遷宮に40億
- なぜ残っているかを考える
- お金のある寺社もある
- 昔は神官←国家公務員
- 額の桁が違う
- 儲かる方に動く
- 国からの支援がない寺社に市が支援する
- 守るべき地域, 景観を決める
- 嵯峨野は市が土地を買って景観を守っている
- 景観保全のために行政が儲けを補てんできるのか?
- 古都税 景観を守る財源

寺社と地域とのつながりがうすい

- 寺から地域→見下され感
- 町中の寺院と観光地の寺院は違う
- 日本はプライベートとパブリックの概念が希薄
- 地道な努力を重ねるしかない

寺社への関心が低い

- 能・・・大学に能楽部をつくった
- 寺社文化に理解を持つ子供を育てる
- ここに建ってはダメとみんなが思えば建たないのでは?
- 何百年も続いているので続くのではないか

- 寺社の方がどう思っておられるのかを知る
- 寺社の参加する景観寺社会議をする
- 今の時代の宗教感にあったことをする
- 寺社の方の意識を外に向ける
- 東京の人のお墓事業

人に関する問題

- 知識不足
- 住職とのコミュニケーション
- 権力者, 中心人物がいなくなった
- 氏子, 檀信徒の意識
- 信用できる人との関わり
- 誰が関わるのか
- 日本人の宗教観, 信仰心
- 現代の生活と合わなくなってしまうこと
- 外部から入ってくる人に地域の事を伝える必要
- 京都は歴史があって建物がある
- 景観だけでなく総合的に見ていくことが大事
- 住む(居住)
- ものをただ残すのではなく人がどう住むか
- よりどころ

な
け
れ
ば

- 見られる(観光)以外の価値がなくなってしまう

- まちづくりへの貢献
- 維持管理(リターン)

- 寺社と周辺との関係
- 景観を分ける...建築物と周辺?
- 社寺周りとの調和
- 地域との関係

- 現状...既に歴史的景観は壊れている
- 残す目的は何か

- どこまで拘束力を持たせるか
- 景観規制の限界・デザイン等
- 看板
- 社寺/建物のデザイン

- 空き家対策

個人系

大社寺系

お金の問題

- 寄付より投資の考え方
- 保存, 保全にはお金が必要 これをどうするか
- 市からの補助, 寄付では足りない
- どのように関わるのか
- 寺社とその周辺へのお金の掛け方

歴史的景観

- 文化→文化財
- 文化を共有する

政教
分離？

行政の
仕組みを
作る

お金

- 寺社を商業として活用
- 建物の保存等ができるシステムを作る…町家ファンド等(寺社についても)
- 現代社会にあった集金システムを考える
- ↓
- 投資という考え方
- ↓
- 何かしらのメリット インセンティブ
- ↓
- 地域の活性化

税金の
問題を見直す

間に入る
機関

人に関する

- まずは寺社そのものについて価値を共有
- 社寺の魅力を感じさせ歴史景観に繋がる文化活動が大切
- 僧侶を育てる
- 仏法を広める

- 残す目的をはっきりさせる
- 景観や歴史文化についての知識向上
- 正しい情報発信
- 適切な人への情報発信
- お寺, 神社との普段からの関わり
- お寺, 神社を人の居場所へ
- 住人を増やす

教育(学校, 地域, 観光客)

- 行政の調整力
- 文化を分類別に知る

歴史的景観を残すうえでの問題点

制度

- 歴史的景観の保全→コストがかかる 資金なし
- バッファゾーンの取り組み方針が決まっていない
- 看板の状況(市内は良くなった)
- 公益の視点がない
- しかけをする人
- 「保全」の「いつの基準？」がわかりにくい

専門家

- 京都の良さ？
- ノスタルジー
- 一過
- 深化が必要
- 日本の生活文化
- 不便さを楽しむ

夜間景観

- 昼間の屋外広告は良くなっている。夜間の景観, 広告物はまだ不十分
- 歴史的価値が消費の対象になってしまう
- ライトアップ→樹木, 夜は休みを取る(月明かり)

地域住民の意識

- 市民の意識向上
- 広い視野で見る
- 景観は「誰かが守っていく」という意識
- 住人の意識・価値観に気づかない
- 「うちはたいしたもんあらへん」という町家の住人
- 各個戸での清掃などの意識を高める
- トイレの設置や保全
- ゴミ屋敷問題

- 現在の歴史的景観は150年ぐらいでつくられたもの。次の100年をどう考えるか
- いつの景観？
- 昭和30年代以降の建物が残らない
- A級は残るがB級は残らない

- 少子高齢化による後継者不足
- 景観を守る地域コミュニティの減少
- 地域(町内)でのコミュニティ不足

- そもそもどんな景観がいいのか？
- 文化的価値のいいもの？
- 世界遺産？空気？
- 150年先を見据えた

保存と開発のジレンマ

コスト

- 問題が起こる前の手立て
- 問題の発生 気づいてからでは遅い
- 問題が発生して初めて地元が動き出す, 平常から協働する仕組みが必要
- 管理維持費
- 近代化・工業化・車社会・電柱
- 大きな景観政策と各審議会での話との中間の方針がない

- 社寺の近くにある空き家の荒れた状況
- 日本の建築文化(まちなみづくり)が法制度により阻害されている
- まちなか, 建物だけではない農地・木・水路をどう保全していくか

- バッファゾーン
- 空き家問題

歴史的景観を残すためにできること

**地域が潤う, お金もうけ
→景観に 産業に**

京都ならではのコミュニティ

「新しい建物の
方がすぐれて
いる」という思
い込みの払拭

**どのような町並みにする
かは地域で決める**

- 地域の参入
- 地域力
- 共通課題
- 地域の連繋
- 地域ごとに残すもの
- ばらつきを許容
- 民泊問題の解決
- インバウンドの拡大
- 地域×空き家
- 高級ホテル誘致
- 洛外 企業, 工業誘致
- 地域おもてなし
- 空き家対策 民泊の法制化
- 学区を超えた, またいだ「地域」を許容する

- 市民のマナー向上 自転車, 駅のホーム, エスカレーターetc
- 歴史的人物の墓地の清掃整備
- 美化ボランティアの活用
- つかずはなれず
- 日頃のおつきあい
- おもしろい人が住む街に
- (必要以上に)元気になるはいけない
- 頑張らない
- まちがきれいになる
- 女性の社会進出 美しくなる
- 空き家をコミュニティの場に
- 高齢者のスキルを出せる機会を
- 若者, よそ者の出番!
- まちの美化ボランティア
- 新しいクリエイター
- 地域ごとに「何」を「どう」保全するのか話し, 共有するが, よそ者, 若者があとから加われるしくみを入れる
- 京都を魅力を感じる人が移り住み 夢

制度 情報の共有

- 建物の色
- ファサードの統一
- 建物のデザイン
- 寺院近くの新築建築物の色彩, 大きさ, 形状などの規則
- 防災上の建物保全
- 美学

- 景観政策と各論をつなぐ方針をつくる
- 「景観」を知る
- 京都らしいカラーコーン, ブルーシート, トラ棒を作る
- 全体の方針を, 所有者, 経済側, 周辺の人で共有
- 公共デザインのクオリティを上げる

デザインのクオリティの向上

**クオリティの低いものは淘汰
良いものだけを次世代に**

山なみ 社寺 田畑

- 仏像の活用
- イベント開催 寺, 神社
- お地藏様を子どものうちから清掃, 整備を →青年, 大人につなげる
- 地域との付き合い
- 寺院が閉鎖的になってきた→開放
- 小学校での教育
- 社寺をコミュニティスペースに
- 開放
- 京都検定の利用
- 社寺を知的拠点に
- 寺院での市民参加行事

寺院の祭の
保全、継承
の支援

多様多様なコ
ミュニケーシ
ョンを増やす

**人 女性, 若者, バカ者, ヨソ者
もっと入れる仕組み**

法律/行政の働きかけ

家族の形

地域 ← 家族

地域・共同体

- 政教分離
- (社寺が守れなくなる理由)死に対する意識の変化
- 郷土の愛し方がわからない

- 資金/税金
- 贈与経済が消え, 市場経済社会へ
- 社寺の経営問題
- 存続させるために経済的な安定が必要

- 住んでいる人が変わる
- 見送る場の変化
- 仏壇, 神棚が消える

- 核家族
- 「個」の社会の到来
- 高齢化
- 世代交代/相続
- 継承に関わる諸問題 人, 物, 金
- イエ制度の崩壊
- 家を継承していけることが必要

• 「どんなまちにするべきか？」の議論の場作り

- ### 公共財
- 寺社と地域の関わり方の変化
 - 寺, 神社との接点なくなる

民

景観

- 保存と開発のバランス
- 問題点...都市化
- 土地所有者との対話不足
- クルマ社会 公共交通, 自転車活用
- 「非観光地」の景観
- 観光客のマナー/エチケット
- 住んでいる人と観光客のズレ

- 所有者の理解
- 空き家問題
- 町家の使われ方
- 老朽化した時と同じ物が建てられないことが問題

- 「風情」や「静けさ」は規制ルールが不十分
- 歴史を知らない
- マチの継承
- 小さなエリアで
- 市と行政をNPOがつなぐ
- 歴史都市としての規制の必要性
- まちづくりに対する意識

公に頼りすぎる

観光客に迎合しないことが大事

バッファゾーン

バッファゾーンを知らない, 資産と関係ある大事なものを知る, 個人の裁量に委ねられている

歴史的景観を残すためにできること

バッファゾーンもどの範囲なの？

タウンミーティング



法制度

バッファゾーン
大事だけれど人・地域によって違うはず

ネットや新しい技術を使った保護手法

- 政教分離とは...？
- 神社の修理をきっかけとした集まり
- 宗教界も地域も世代交替
- 経済界への働きかけ
- 東京の寺との連携

- 大規模寺がしめる
- 災害時の機能をはたせない

- 鎮守の森を残す
- 寺、神社の近くの家屋を継承

- 自転車にもやさしい街を
- 歩行者、自転車専用レーンの整備

公共財として 寺・神社

バッファゾーン保存条例の整備

建築基準法の害



開

- 「寺子屋」を寺で開催する
- 寺 防犯対策が必要
- 寺から門をなくす
- 遊び場として使った今は？
- 寺社の価値の掘り起し

- 景観市民会議を毎月開催する
- 「なぜ開発より保全を優先させるのか？」に関する理解を深める場作り(勉強会)
- 市民会議(タウンミーティング)の回数を増やすべき
- 景観まちづくりセンターをパワーアップさせる(機能強化)
- ローカルエリア毎の相談窓口開設

知

文化財の調査

- コミュニティの崩壊
- 地域共同体(ムラ)の崩壊
- 地域コミュニティの絆が大切
- 地元で仕事をつくる(自分の街にいる時間を長くする)

- 歴史は積み重ね 変化のある程度の容認
- 会議もただでまず知識をつけたら
- 寺社とその周辺をセットで景観を考える

マチ

地域住民の具体的取組

- 氏子や檀家という以外のファンクラブのような仕組み
- ゴミ拾い
- 徒歩、自転車で地域の魅力再発見
- 自分のまちの良さを知る機会づくり
- 小学校の歴史
- まちあるきツアーの充実
- 寺社をコア(核)にしたまちあるき

大学や学生との連携(プロジェクト形式)